

〔出席委員〕 小谷次雄、河村壮一郎、西坂千代子、吉田知子、小林隆成、桑垣智志、荒瀧美由紀、米田美奈子、明德一志、加藤晋彦、笠見猛、山下千之、笠田直樹、牧田悟（敬称略）

1 開会	
司会	(開会の宣言)
① 開会挨拶	
会長	<p>今、倉吉市では、災害に対する話題はどこに行っても出ているわけだが、10月21日の地震をはじめ、大雪も含めて災害に対する対応はどうであったのかを反省しているところである。学校教育においても、子ども達に被害がなかったのが何よりであったが、社会教育の施設であったり給食センターや学校施設などいろいろな被害が出ているので、教育委員会もその対応が大変であったと思う。丁度あの時には、自分も公民館の2階で講座を開いており、もう2度と体験したくないと正直思った。幸いなことにけが人もなかったが、なかなか復旧が進まないということで焦りをもっているところである。それよりも、住民や児童生徒の心の問題が大事だろうと思う。この経験を活かし、強くしっかりと歩んでくれる子どもになってくれたらいいと思っている。</p> <p>さて、今日は第2回ということになるが、議事も結構多くあり、先程の地震等の対応についても説明があるかと思うが、要領よく核心を突いて進めていきたい。皆さんよろしくお願ひしたい。</p>
教育長	<p>今日の会は、今年度のまとめという形になると思う。先程会長からあったように、10.21鳥取中部地震の総括をやっていく必要があるかと思う。手元に、1月4日付で教育委員会のHPに掲載した私の年頭メッセージを入れている。この5年間で約50億円を使い学校の耐震化事業を進めてきた。まだ学校の耐震化が完了していない学校があと2校残っていたのだが、地震の時には明倫小は耐震化した校舎、成徳小は仮設校舎で児童は生活しており、子ども達に不幸なことは起こらなかった。市長とも話をしたが、本当に胸をなで下ろした。しかし、震災復旧をするために、本年度は小中学校は6億円、社会教育施設（陸上競技場等）は4.5億円、文化財関係（伝建群等）は5.5億円、合計で10数億円となる。市全体としては50億円を超える。約5万人の人口で割ると、1人10万円ずつの借金を背負ったということになる。そういう現実を踏まえながら、どうしていくのかについて縷々述べさせていただいている。やはりそういったことを踏まえるならば、「選択と集中」をやっていかなければならない。来年度の予算要求は非常にあっさりしたものであった。なぜならば、「財源なし。新規事業なし」ということで、予想よりもはるかに早く決まっていた。事業をするためのお金がないわけなので致し方ない。ここに成徳小学校の写真があるが、やはり倉吉の復興のシンボルだと思う。また、明倫小学校の児童が、原稿用紙8枚にわたり「地震が私の教えてくれたこと」という作文を書いた。地震という不幸なことがあったのだけれども、これを教訓としながらしっかりと頑張っている子ども達もいるということ、市民の皆さんにもお知らせして元気を出していきたい。こういったことを踏まえながら、現実の課題、あるいはこれからどうしていくのかについての展望を述べたいと思う。審議をよろしくお願ひしたい。</p>
司会	資料確認
2 協議	
会長	協議事項1について気づいた点や意見があったら出してほしい。
委員	計画通りに執行したところは、Aでもよいのではないかと思った。また、学校再編については、協議会を立ち上げることができなかったのがC評価をしているが、地震の影響があったのである意味仕方ないと思う。評価というものを考え直したらいいと思う。

教育長	年度の前半は精力的に説明会をやってきた。結果的には、協議会を立ち上げることができなかつたのでC評価であるが、やむを得ないという気持ちはある。逆に3ページ目の不登校については、取組はやってきたが結果として人数が減っていないので、C評価でも仕方ないかと教育委員会内では協議していた。
会長	評価できないものについては、「評価不能」との標記はどうか。どうしても評価するのであれば、地震前までのところですか。あんな災害時に協議会をやっていたら地域から叱られる。
委員	赤ちゃんふれあい会についてだが、開催する側としては赤ちゃんを学校ごとに振り分けるのが非常に大変である。また、日程が混み合ってくると、赤ちゃんの生活リズムが狂ってしまい、そのあたりの配慮も必要だと感じている。現在、小学校5、6年生と中学校で実施しているが、全中学校が、しかも3年生で実施するのが一番教育的効果があるだろうと感じる。小学校だと、5年生ではだっこをさせても体格的にも不安があると感じる。赤ちゃんを小中学校どちらにも派遣するのはとても大変なので、できれば中学校に絞っていただければと思っている。年2回実施する学校もあるが、同じ赤ちゃんに出会うということはなかなか難しい。開催の仕方については工夫が必要だと感じる。赤ちゃんの都合も考えたいし、天候にも配慮していかなければならない。
事務局	今ちょうど別の部屋で、この件について検討しているところである。以前、この事業の検討会に出席したのだが、赤ちゃんや保護者への負担について話し合われていた。いくら子どもたちに良いこととはいえ、この点についても考えていかねばと思う。赤ちゃんの数も少なくなってきた状況もあり、来年度は、赤ちゃんだけでなく保育所の協力を得ながら、乳幼児に幅を広げて話を進めているところである。
会長	先程の委員からの提案は、小学校よりも中学校の方がいいのではということだったので、その点の検討をお願いしたい。中学生の方が見ていて安心感がある。小学生は危ない感じがする。
事務局	関係者・保護者の意見としては、小学校は準備段階から工夫をするが、中学校はなかなかそこができない。保護者は小学生との交流を喜んでいる。しかし、教育的な効果では中学校の方が良いので、来年度以降どういう形にするのか、検討中である。
会長	では、地震対応についてはどうか。給食はいつから始まるのか。
教育長	給食センターの工事は順調に進んでいる。3月10日に完了予定で、その後機械を稼働して試運転をしていく。来年度の4月開始には間に合わせたい。給食に関しては本当に大変お世話になり、全国からたくさんの御支援をいただいた。
会長	パンと牛乳だけの給食がTVに映ったので、あの反響が大きかったと思う。
教育長	災害時での学校給食のあり方については、文科省もそういう資料を持っていないので、2月10日に倉吉市まで聞き取りに来られた。この場合については、給食というのは完全な形では提供できない。現在、茶碗は自分で持ってきて使い洗うようにしているが、これは給食方法としては絶対にアウト。しかし、そんなことを言っているのは給食が提供できないので、目をつぶっていただいている。ノロウイルスが発生する時期になってひやひやしている。ある中学校の生徒会執行部に、家に帰って弁当箱を洗うかを尋ねたことがあるが2人手を挙げた。この動きは広げないといけない思い、いろいろなところで話をさせていただいた。せめて自分でできることをやろう。一つの教材になったと感じている。
会長	給食費はどうなっているのか。
教育長	給食費の徴収は2月までストップしている。今回は4段階ごとに徴収する値段が違う。弁当の時はもちろん費用はかからないが、1つは簡易給食(パンと牛乳のみ)の時、2つめは4町支援給食の時、3つめは短大給食の時、4つめは業者弁当の時とそれぞれ値段が違うので、最終的には3月で調整するが並大抵の作業

	ではない。今までなら、(給食を停止した食数) × (1食の単価) を年度末に調整していた。端末が3台しかないの、3月24日から1週間ぶっ通しで処理して調整額を決定していたのだが、今年度は4, 200人分を、しかも単価が4段階でそれぞれ違うので、間違えないようには言っているが、間違いがあるのではないかと思っている。回数と値段を確定するのに時間がかかるため、申し訳ないが給食を少し早めに終わらせていただくことを御理解いただきたい。
事務局	値段については、小中学校とも約60円下げていると保護者に連絡させていただいている。今回の件で、倉吉市はすごいと思ったことがある。倉吉市の給食は公会計になっている。公会計なので市長・教育長の了解を得て、業者弁当でも4町支援給食でもスムーズにいけたのだが、給食会だといざお金が足りなくなるときの、市からの補助金を持ってくるため議会にかかる必要があり対応が遅くなってしまう。以前の教育委員会の委員が働きかけて公会計にしたのが、この地震の時に役立った。公会計でなければ、今までの対応はできていないと思う。
委員	4ページの児童・生徒の心のケアについて、「スクールカウンセラーを中学校区に1名配置」ではなく、「さらに1名配置」と記載するべきである。
会長	では、協議事項3、小中学生の生徒指導について何か質問があるか。
個別事例についての協議	
委員	また、スマホを扱う年齢がどんどん低年齢化しており、以前は高校生になってからだったものが、今は中学生で持っている。小学生の時からスマホを使っている子が、今、中学生にいる。そのあたりをすごく問題視して見ていかねばと思う。保育園・幼稚園の時から、戦闘ゲームを度々やっている子が小学校に上がると、落ち着きがなく乱暴だったりということが起こっている。家庭の状況も含めていろんな対策をとっていかないと、とても大変な状況が年々起こっていくことが容易に想像できる。子どもの貧困対策を考えていく際には、子どもの貧困状態、家庭状況・教育力、子どもに起こっている問題行動を見ていく上で、非金銭的はく奪指標で点検していくことが必要だろうと思う。
教育長	ライン関係の絡みはうすうす感じているが実態がつかめていない。
事務局	警察の方は、小学生も中高生につながっているとはっきり言われた。我々が気づいていないだけであると。
会長	学校でも調べようがないか。
委員	学校でのアンケート調査では、中学生の4割弱が携帯端末等を持っていると回答した。
委員	保護者に対する研修会を、保育園の方から開催していただくようお願いしたことがある。この問題に対して親がついていけない状況がある。iPodやiPad、ゲーム機の端末などインターネットにつながるものなら全部ラインにつながってしまう。以前はパソコンをついていたことで子どもがメールをしているのが分かったが、端末機でやられると大人の目には見えない。ゲーム機だと思って与えたらインターネットにつながるということを大人は知らない。
教育長	学校もかなり危機感を持って研修会を開催している。
会長	P T Aでも取り組んでいるか。
委員	L I N E株式会社の方は、研修会の講師に無料で来られ、使い方の良いところと悪いところ両方を宣伝して帰る。また、メディア21運動を展開しており、倉吉市では21時になったら携帯やゲーム等ネットにつながるものは切ろうという運動をしている。米子市はもう1歩進んで「21時を過ぎたら持ちません」としている。やはりSNSは中高生にもすごい広がっており、それをどうしたらいいのかは大きな課題である。そこで、一度この課題について、子供たちと話をするために「子供サミット」の開催を企画している。小中高生が集まってこの課題に

	対して話をし、最後はまとめて提言しようと考えている。ただ、それでコントロールできる子はいいのだが、ごくわずかな指導が入り込めない特定の子も達にどうするかが難しい。
委員	P T Aも一生懸命研修会をしたりするが、やはり来る人と来ない人に分かれてしまう。来る人はどんどんスキルが上がるのだが、来ない人には行き届かないので格差ができています。
会長	やはり生徒会などが関わって、子どもが立ち上がらないといけません。どうしてもそこからはみ出す子はいるとは思うが、でも学校全体の雰囲気は違ってくると思う。健全育成が大切である。
委員	いじめの問題もそうだが、子ども達の自浄能力を高めていくことが大切である。「やめよう」「やらない」「見つけたら注意してやらせない」という雰囲気を、子ども達全体がつくっていくようにしないと、個別に当たってもなかなか難しい。
委員	人間同士の距離感が分からないので、SNSで「読まない」「返事しない」ということをすごく恐れて、どんどん悪い方向に行くことを自制できない。信じてもらえるという確信が持てるような手応えを、本当の友達と話をしながら感じてもらった嬉し。
委員	この間、小学校と保育園と合同でメディアの話を聞いたが、とてもいい話だった。その後のグループ討議の中で、「小児科などで子どもがじっとしない時に、携帯を持たせて子守をさせていた親がいた」と口々に言われていた。そこが発端だろうと思う。そこからインターネットの世界へ入ってしまうのだろう。保育園で家庭の様子を聞いていても、ゲーム機がない家はない。そこをどう止めるのかという話だが、親の意識を変えていくしかないし、見えるところに機器を置かないということだが、難しい課題だという話でなかなか結論は出なかった。一人でも多くの方に来ていただいて、この恐ろしさを感じとってもらえたら少しは減るだろうと思う。
委員	今回の事件の加害者教育が重要かと思う。周りの子が見ているので、こういった子達が今後どう変わっていくのかが、周囲の子達に大きな影響を与えると思う。
教育長	子どもの中に規範意識をどう育てていくのか。
会長	人間関係がねじれたり不信感を持つのが一番いけない。教育がそこに入っていないといけない。
会長	では、協議事項4、地域学校委員会について何か意見はあるか。
委員	今後は、教育委員会が一括して扱うという見方でいいか。そうであれば、これまでの学校ごとの地域学校委員会のもち方が変わるので、整合性はどうかという心配がある。このように雛形を定めるのはいいが、これをこなすのは大変である。メニュー豊富にわざわざ月ごとに考えられたのではあろうが、事業の執行が2ヶ月あるいは3ヶ月に1回としても、果たしてできるのか。世話する人が同じメンバーでやらざるを得ないのは容易に想定できるので、本当にこのパターンでいいかと思う。もっと言うと、地域学校委員会がそれぞれの学校につくられているが、学校ごとに蓄積の違いがある。このやり方だと違和感が出てきはしないか。ようやく地域学校委員会が根付いてきて、何とか地域で盛り上げていかねばとなってきたところに、こうなってしまうとどうかと思った。
会長	今までの倉吉流としてやってきたのを、文科省のコミュニティースクールに合わせていっているのか。
教育長	国の方は、コミュニティースクールは努力義務ということで法案を出している。ただ、きちんとしたものでなくても、倉吉版とか地方版でも構わないと言っている。しかし、その要件として、「承認」の部分だけは譲れないということであった。倉吉市は今まで「理解を得る」としていたのでそこを変更した。実際に

	<p>は、学校は校長が主体となって運営しなければならない。地域はそこまで権限を持ってないというのが倉吉の実情であった。だから、校長先生方には、経営方針を提案して意見をいただき、それを踏まえて学校運営をするということを承認してもらえば良いと言ってある。今までの取組でだいぶつながってきていると思っている。地域学校委員会がすべて学校に口出しできるかということそうではない。最高責任者は校長なので、地域学校委員会はいわゆる理事会的な学校にお任せという形の中でやっていただく。人事案件は一切入れていない。それは必須要件ではないと文科省に確認している。</p>
会長	<p>私もこれを見たときに、今後は教育委員会主導でがっちりやるとなると、それぞれが今まで築いてきたものはどうなるかと思った。これだと行政は楽かもしれないが、地域を巻き込む事業というのはそんなものではない。そもそも、校長の経営方針に「それはおかしい」と言えるかどうか。よほどである。「地域のために頑張ってください」なら言える。言葉が、教育委員会が「承認する」「委嘱する」「許可を取る」とかなるとあまり良い感じがしない。</p>
教育長	<p>現実問題としては同じことである。委嘱は今もしている。「理解を得てもらう」ということは「承認」ということ。この資料は1つの雛形なので、この通りやるのは無理だと思っている。実際、これ以上のことをやっておられるので、それを一度整理しようということである。</p>
委員	<p>ということは、地域の判断があってもいいということか。</p>
教育長	<p>その通りである。これは雛形なので、この通りにやって下さいという気はさらさらしない。1つの考え方を示したままである。実際には、もうこれを行っているのがほとんどである。ただこういう形での整理はできていない。</p>
委員	<p>しかし、これが出ればこの通りにやろうかとなるのが当たり前ではないか。</p>
教育長	<p>整理してもらいながら、例えば、「毎月は大変なので2ヶ月に1回にしよう」というのは、当然あるべきだと思う。</p>
委員	<p>言いたいのは、文科省の通りのものをやるというならやればいい。しかし、今までの地域学校委員会と比較してというか踏まえて言うなら、こういうように画一化されてしまうとしんどい部分となじまない部分が出てしまう。そういう意味でいうならば、少し時間をおいて議論して、文科省の形に限りなく近づけるなら近づけるで、倉吉版コミュニティースクールをつくるならそれはそれでいい。そうでないと、ここまでまとめられてしまうと「今までの積み重ねは何だったのか」ということに、ものすごい私は責任を求められる。直ちに了解はとてできない。</p>
教育長	<p>それは各地域に基づいて、今までやってこられたものがあるので、それでやってもらえばいい。絶対この通りやってもらわねばというものではない。</p>
委員	<p>教育を語る会を4年前から定期的にやってきた。まだまだiPhoneとかを規制しようか規制しまいかかという時期だったが、明らかに規制していこうという考え方で教育を語る会を講師を呼んで始めた。今は世の中全体が規制の方向で走っており、ようやくそうなったと喜んでいるが、その時は地域の課題としてこの問題を抱えた。もちろん地域学校委員会で、学校の内容についても話し合ってきたが、主要な課題はその点につきた。2、3年先まで続けなければならないと思うのと、むしろ保育園の保護者を対象に取り込んで、別な機会にもう一度会を設けなければいけないというレベルまでようやく到達した。地域学校委員会の作り方は、丁寧にやってきたことなので、こういうものを出されてしまうとちょっと位相が合わないと思ってしまう。</p>
会長	<p>あまりにも丁寧に書いてあって、いかにもしなければならないように思ってしまう。次世代育成にしてもそうだが、予算のない中で地域でやらなければならない。そこは地域の希望を大事にしてやればよいと思う。</p>
教育長	<p>整理をしようというところが一番大事なところである。重なっている部分があ</p>

	<p>ると思うのでそこを整理してほしい。</p>
会長	<p>小学校は地域とつながり強いが、中学校が地域とどうつながるか。町村であれば小中学校も1～2校ずつあり、更に高校までつながるラインで、地域で学校づくりの話ができる。市はなかなかそこができない。しかし、中高生とどうつなげていくのかという視点を抜いてしまうと、次世代育成は絵に描いた餅になってしまう。中学校の地域学校委員会の存在をどう高めていくのか、地域とどうつなげていくのか。上下の世代の子どもをつなげていく点でも、中学校の位置づけは大切であると思う。中学校と地域がしっかりつながれば、そこに取り込んでいけるものはいっぱいあるのではないかと思っている。</p>
委員	<p>今年度からの西中のPTA・町内生徒会が計画したこととして、自治公ごとに自治公の年間行事のどこでもいいから、中学生と保護者が参加して地域貢献をすることを始めた。昨日、アンケートを集約したものを見せてもらったが、地域の人から来年も頼むとお願いされたといういい意見がいっぱい出てきた。この取組を各自自治公を通じて地域の人に知っていただきたい。こういう関係作りを、地域学校委員会の役割としてお願いしたいと思っている。</p>
教育長	<p>中学校は中学校独自の課題があって、中学校独自での教育を考える会はあるのだと思う。小中学校が地域でズドン、これも大事。しかし、中学校区は中学校区だけの課題としてやっていく必要もありはしないかと感じている。どうやっていくかは相談しなければならないが。</p>
委員	<p>それは、西中に通っている小学校区の自治公の協議会長に来てもらって、事業の中に取り込んで協力していただくような話をすればいい。地区の運動会にも中学生ボランティアが来ているが、登場の場面をきちんと作ってやっている。例えば、開会式の時に、全員に住所・名前・抱負、あるいは趣味まで言わせるようにしているがきちんとする。その場面があること自体にみんなが喜んでいる。そういう機会を作ったほうがいい。</p>
教育長	<p>私も行かせていただいたが温かな感じがした。</p>
会長	<p>今までは、地域が学校にボランティアという形で入って行ったが、今度は学校も出て行く、即ち子どもたちが地域に出て行くことを仕向けてほしい。地域貢献と言ったら大げさになるかもしれないが、自分達も地域のために何かできるのではないかと思ってやってくれたら嬉しい。東中は学友会が立ち上がった。「玉川を美しくしたい」と学友会が取り組んでくれた。思っていたよりもたくさんの生徒が参加して、地域の人と一緒に取り組んだ。「やらさせた」ではなく、「自分達がやった」ということがいいと思う。2回目は地震で中止にはなってしまったが、こういう動きが出てくれば、次世代育成の方にもつながってくるだろうと思う。</p>
教育長	<p>上灘の方は絵下谷川もやってくれと言っているようだ。手法は分かったのでやれると思う。</p>
会長	<p>では、協議事項4、適正配置について何かあるか。</p>
教育長	<p>地震で途中やめになってしまったのかと言われた。3月議会でも、学校統合について議員からの質問を何本か受けている。やはり、地震も踏まえた上で、市全体を見通しながらどう考えていくのかを、もう一度私たちも市民の皆さんとも対話を重ねていかなければならないと思っている。一応計画では、32年開校というスケジュールではあるが、その通りになるかは別問題として、現状を踏まえながらしっかりと議論を重ねていかなければならないと思っている。</p>
会長	<p>草案は変えないのか。</p>
教育長	<p>市長とも協議をしながらやってきている。ただ、市長の方も12月議会の時に、地震の影響も考えながら、何が何でも計画通りにするという事ではないと言っている。市民としっかりと協議していくことが必要であろう。</p>
会長	<p>成徳地区はあのような立派な校舎が出来上がった。みんな喜んでいる。やは</p>

	り、皆さんはいろいろ言いたいことがあるようだ。
教育長	耐震化をしておいて、本当に良かったと思う。
会長	耐震化をしてなかったら子どもは危なかったと思う。校舎建築に対しいろいろ意見はあったようだが、子どもの命は助かるし、立派な校舎が出来上がってきたし、ここでもう一度考えたらどうかというのが地域の意見である。成徳地区だけでなくどこもだと思う。
教育長	ただ、この問題を考えてきた「子どもの数が少なくなっていくことについての課題」は、1つも解決していない。えらいが、私達はしなければならない。
会長	要望はいろいろ出ると思う。その他で何かあるか。
委員	倉吉市の方から、生徒指導上の課題について話していただいたが、小中学校に声をかけて開いた緊急会議は非常に意義ある会だったと思う。その中で、教育長が「道徳教育の推進」ということを言われた。生徒指導上の問題は、全県を見ても増加傾向にある。そういう状況の中、解決の1つの鍵として、道徳教育ということも挙げられるのではないかと思っている。県としても、倉吉市と協力しながら解決に向けて取り組んでいきたい。
委員	資料に英語が多くて分からないので注釈を入れてほしい。
会長	次回の資料からはお願いしたい。
4 閉会	